

A large flock of white seabirds, likely terns, is captured in flight over a coastal landscape. The birds are densely packed in the center of the frame, creating a sense of movement and activity. The background shows a body of water in the foreground, a red structure (possibly a pier or breakwater) in the middle ground, and a hazy sky above. The overall scene conveys a sense of a thriving bird colony.

有明海沿岸のシギチ動向

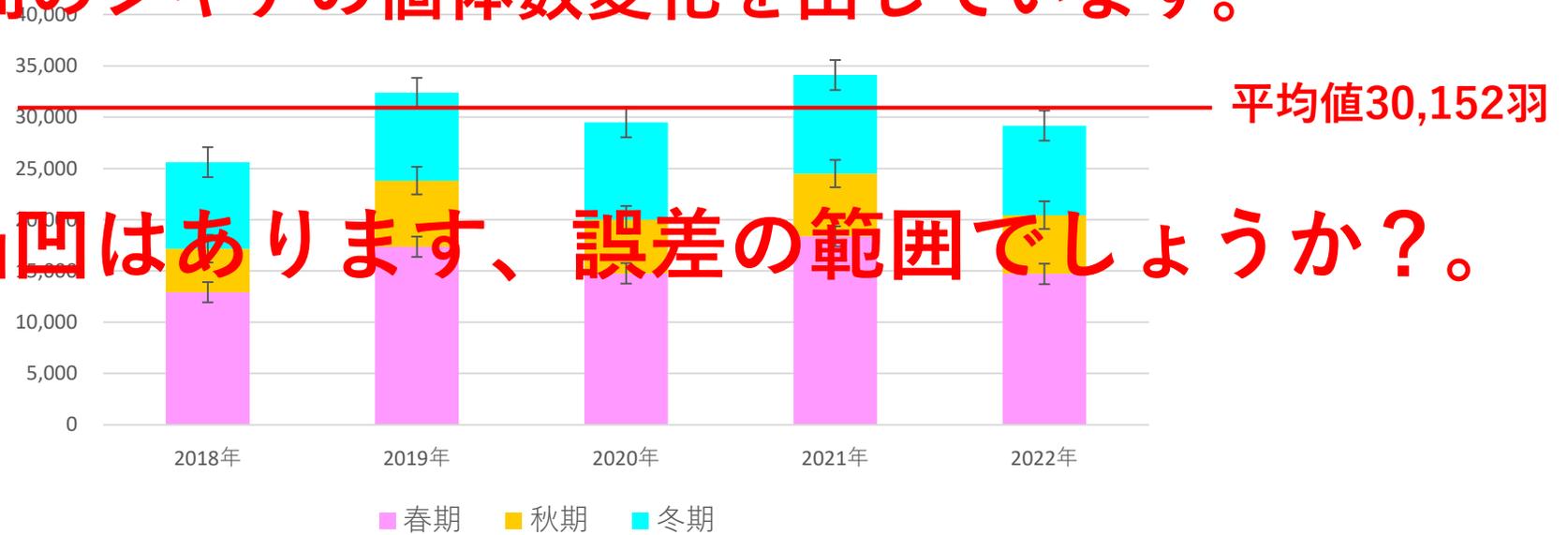
2022年度最大渡来数



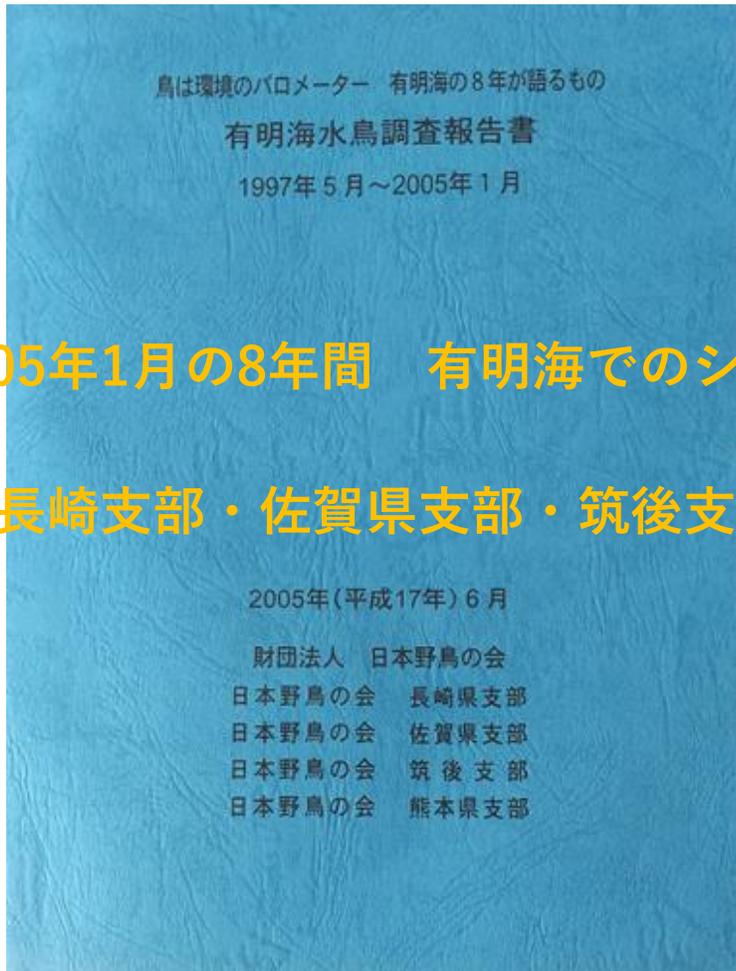
有明海沿岸は多くのシギチが渡来し休息の場所として利用しています！

			2018年	2019年	2020年度	2021年度	2022年度
東よか干潟 大授揚	春期	種数	32	30	31	34	37
		個体数	12,912	17,366	14,763	18,373	14,707
	秋期	種数	31	33	32	32	28
		個体数	4,257	6,440	5,227	6,123	5,736
	冬期	種数	21	22	19	22	21
		個体数	8,434	8,566	9,502	9,621	8,732

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の最大個体数のデータです。
 5年間のシギチの個体数変化を出しています。

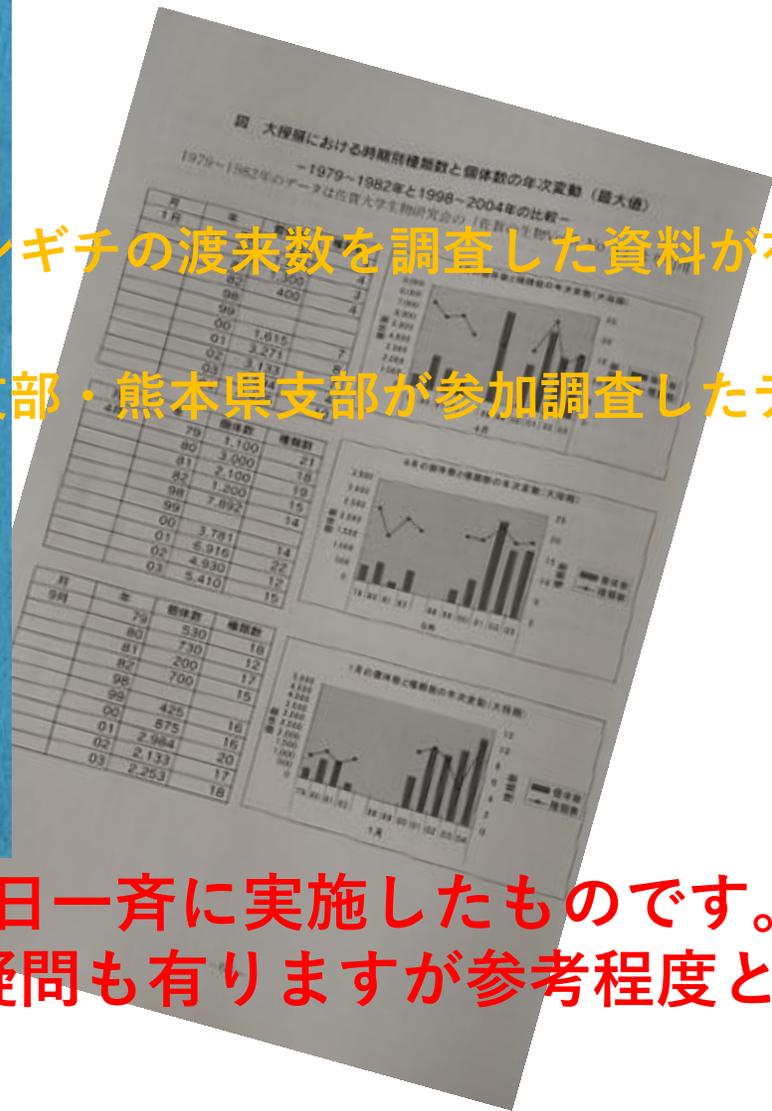


年により凸凹はありますが、誤差の範囲でしょうか？。



1997年5月～2005年1月の8年間 有明海でのシギチの渡来数を調査した資料が有ります。

(財)日本野鳥の会、長崎支部・佐賀県支部・筑後支部・熊本県支部が参加調査したデータです。



調査は毎年、春・秋・冬の指定日一斉に実施したものです。
調査データの抜けた地域も多く、精度には疑問も有りますが参考程度とお考えください。



1997年～2005年 調査地点

赤文字の調査地点がモニタリングサイト1000で引き続き調査が継続されています！

早津江川河口 大野島 (早津江川岸・筑後川岸)

六角川河口 平和搦 東よか干潟 (大授搦)

肥前鹿島干潟 (鹿島新笹)

柳川市昭代
橋本干潟
三池干潟
大牟田

荒尾干潟

小長井海岸
諫早湾北部排水門

雲 諫早湾南部排水門

菊池川河口

白川河口

球磨川河口



モニタリングサイト1000のデータではシギチの個体数は減少傾向に有ることが報告されています。その様な中、東よか干潟に関わる私達の『肌感覚』では大きく変わりはないとの意見です！

一方、他の有明海沿岸部ではシギチが居なくなったとの声をよく聞きます！

有明海の劣化も問題です、温暖化による海水面の温度上昇や近年の豪雨や台風進路の変化の影響等での低酸素化や、人為的圧力によりシギチの餌資源（ベントス）の減少が懸念されます。

また、東よか干潟（大授搦）では進行する陸化による干潟の乾燥後退もあります。



ここでは20年前の有明海のシギチの個体数と現在の個体数の変化は、どうなのか？検証します！

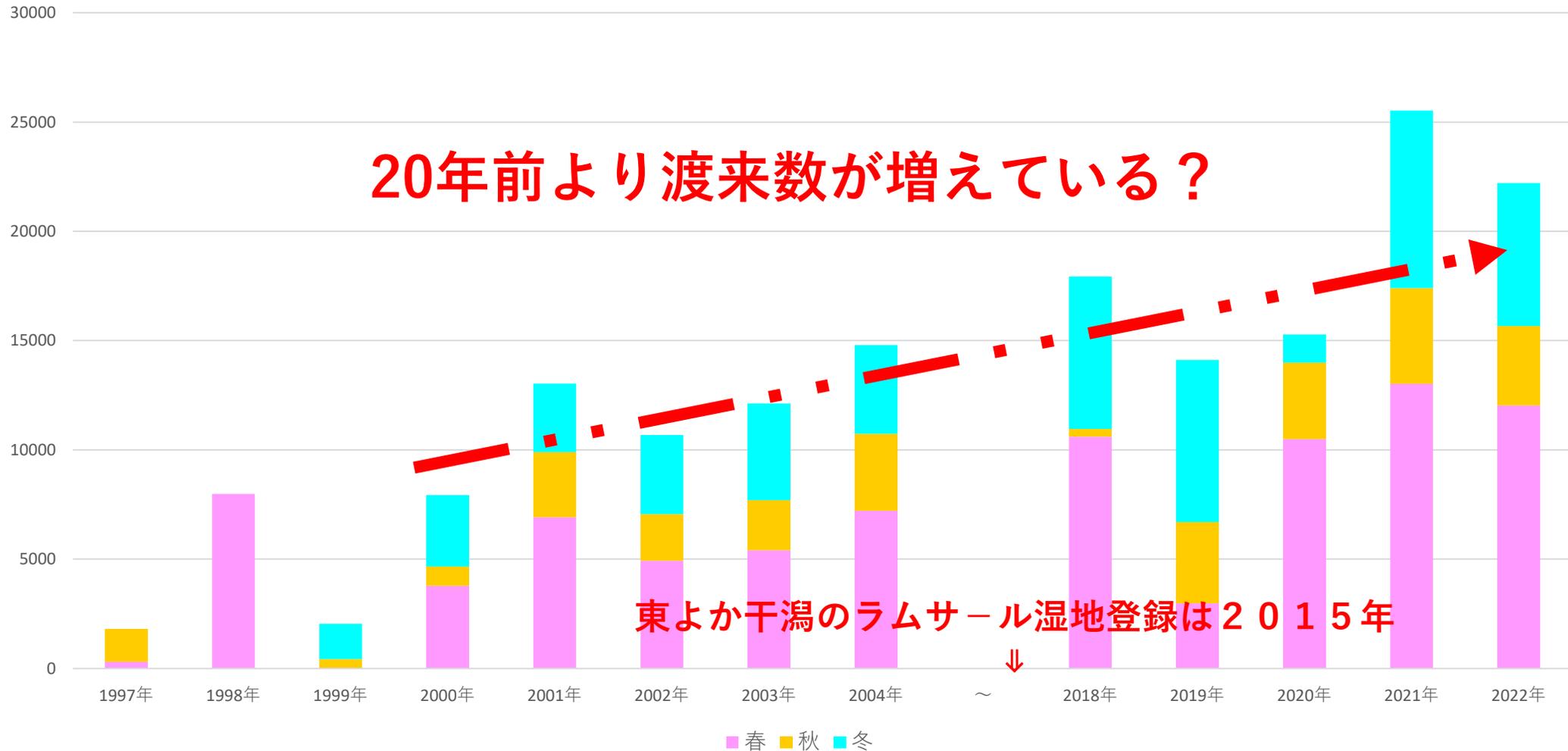


1997年～2005年調査資料と現況を比較して何が見えて来るのか？



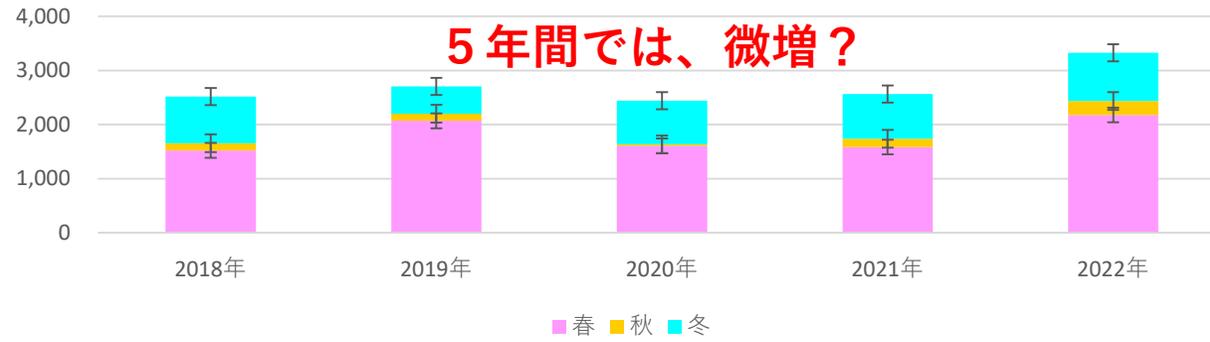
1997年～2005年調査は同日一斉1回のため、近年分の数字も一斉調査分を使いました。

最大個体数が精度が高いとは理解しますが、比較と言うことで敢えて！
東よか干潟（大授搦）



肥前鹿島干潟
(鹿島新竈海岸)

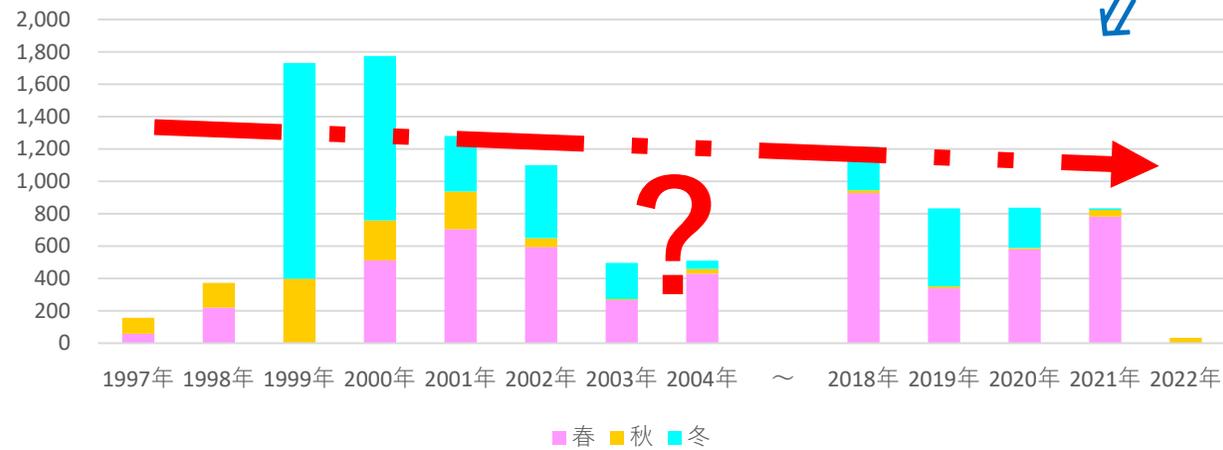
5年間では、微増？



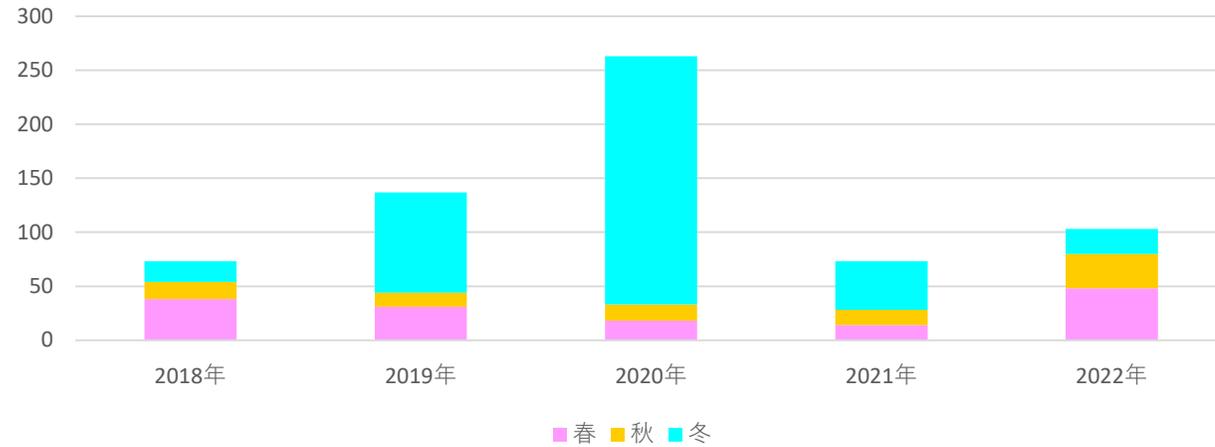
最大個体数推移 ⇒

一斉調査データ

渡来数推移

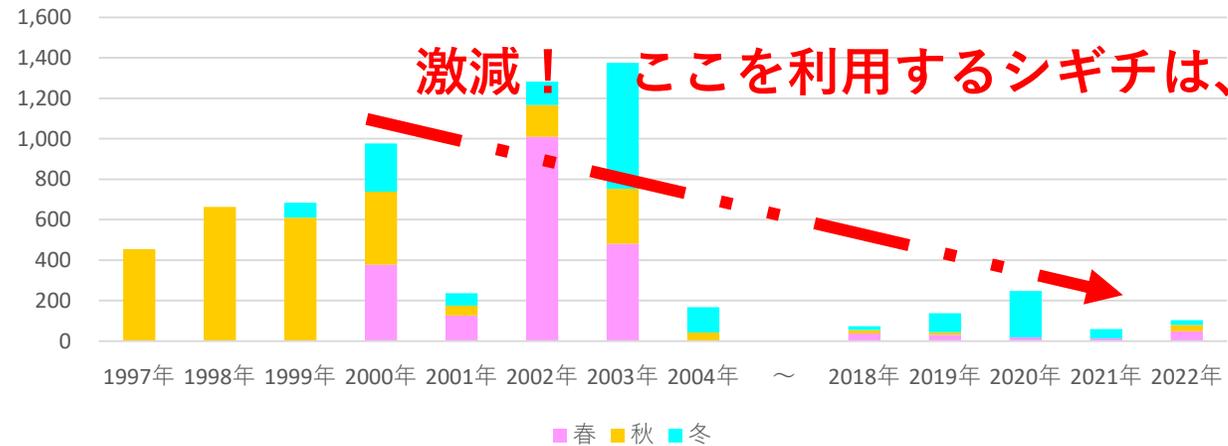


六角川河口



六角川河口は東よか干潟と直線で5 km～6 kmの位置です。

渡来数推移

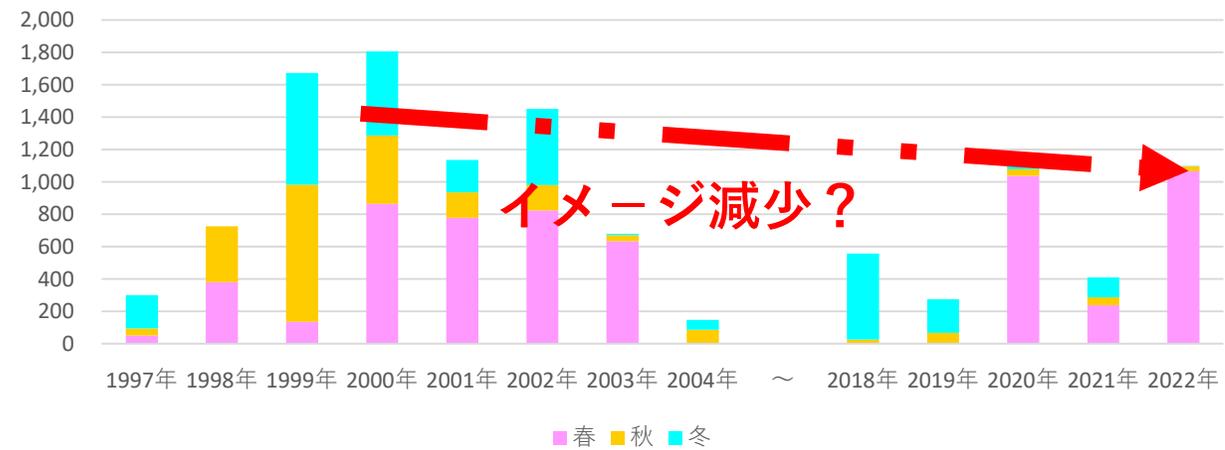


激減！ここを利用するシギチは、ほとんど見ません！

早津江川



渡来数推移



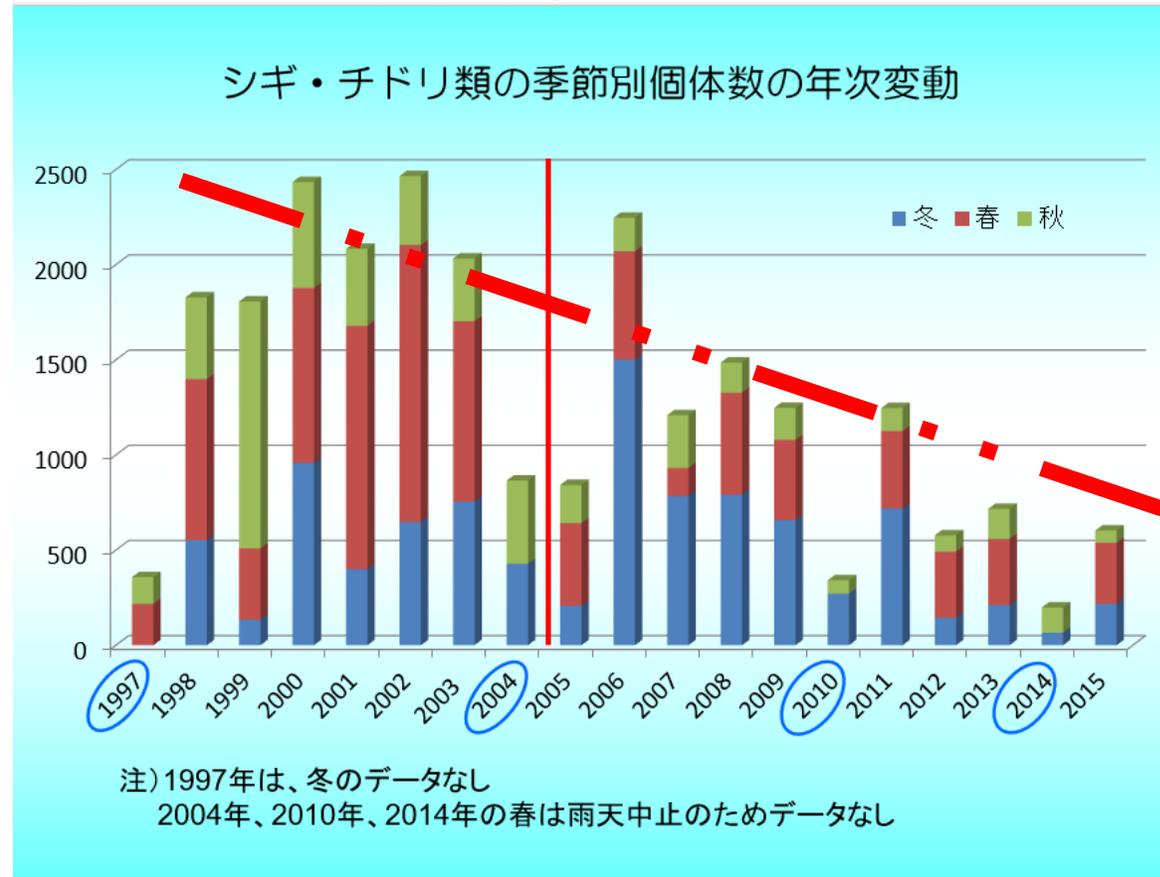
大野島



大野島と筑後川右岸（一般サイト）の調査は2020年より私がしています。主にソリハシシギが入るのですが個体数は少なく、1羽も確認出来ないことも有ります！



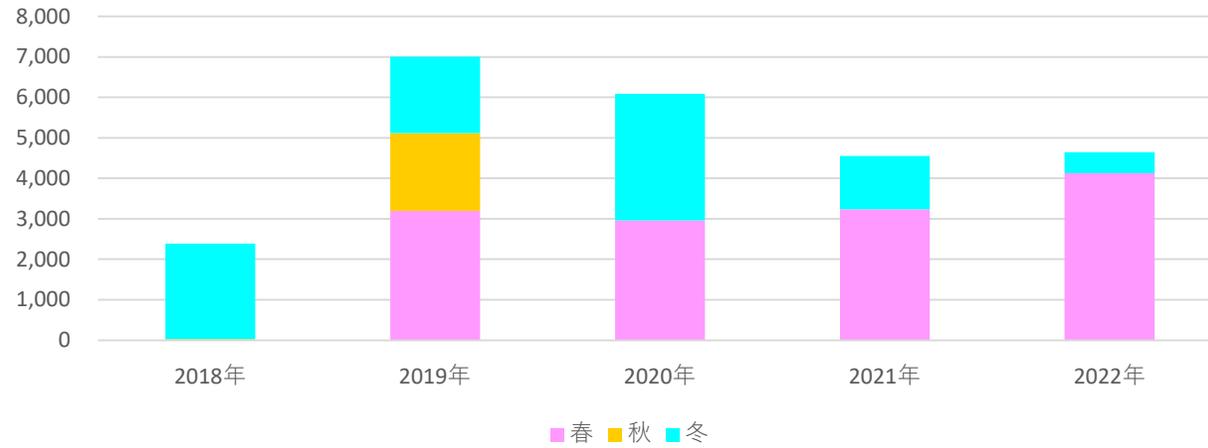
日本野鳥の会筑後支部の調査地「昭代干潟」「橋本干拓」「大和干拓」「三池干拓」「大牟田」はモニ1000の調査地より外れ、20年前と比較する数字はありませんが！2005年～2015年まで継続調査をされたグラフをいただきました！グラフは筑後支部の調査地全てを合わせてあります。



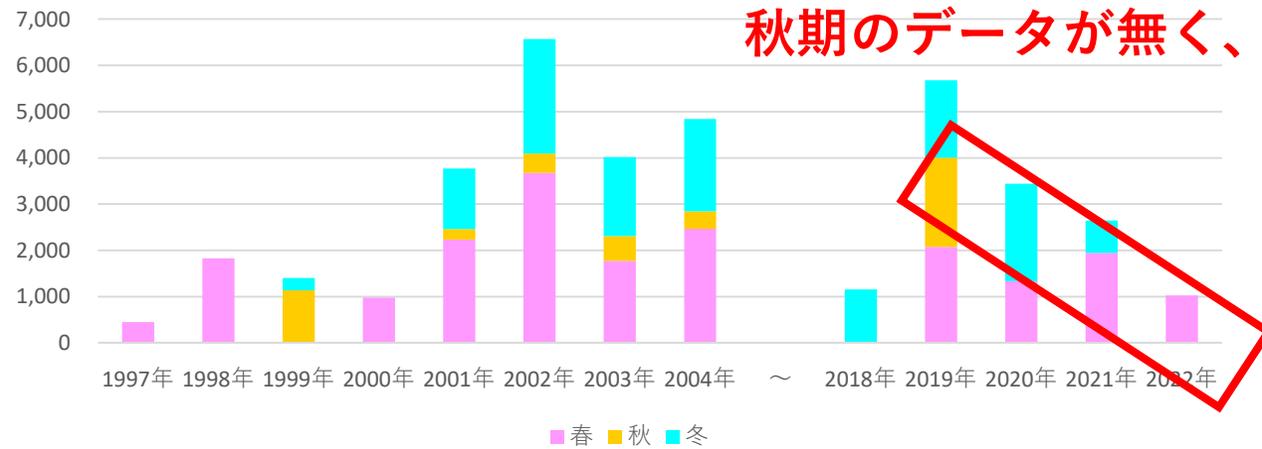
2%まで激減

調査を続けてられる江口浩喜氏のお話しでは
1970年代より20年でシギチは1/50に激減したそうです。

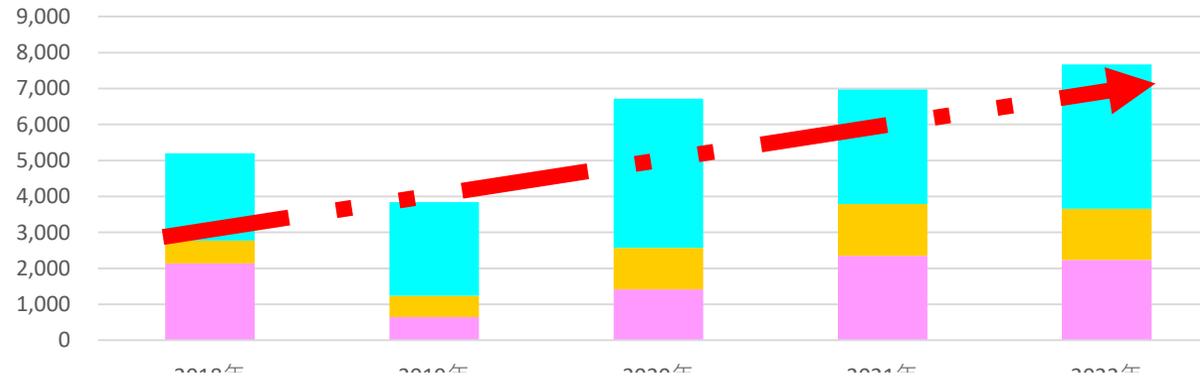
荒尾海岸



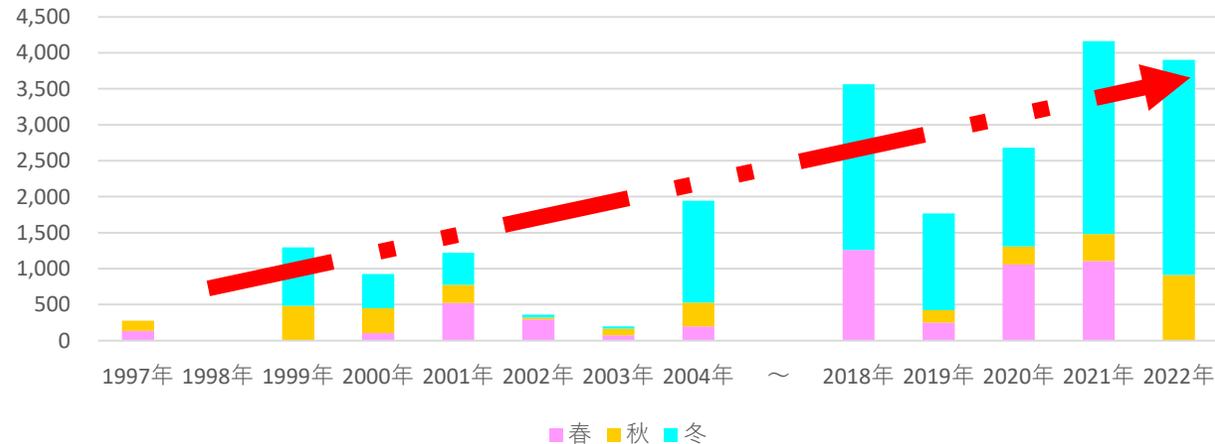
荒尾海岸



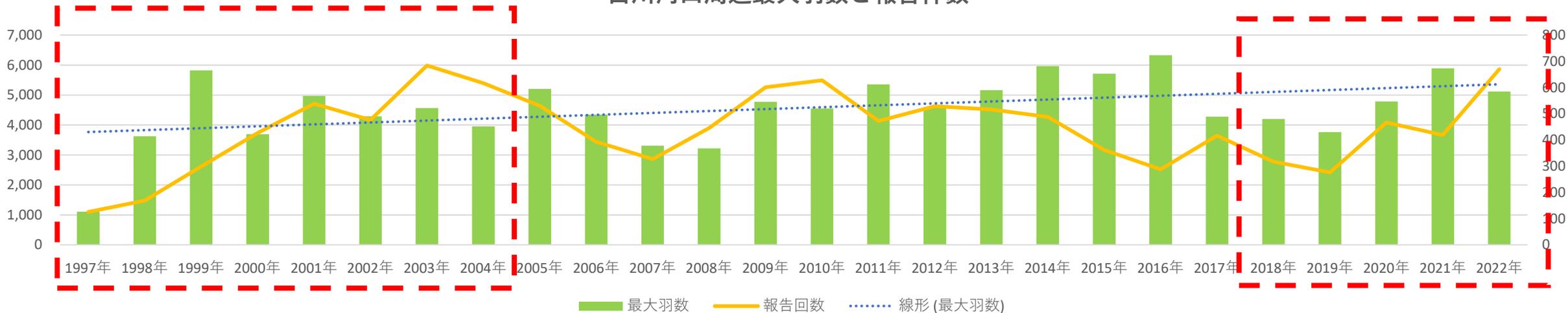
白川河口



結果を受け、熊本県支部へ「増えている要因は何が考えられますか？」と問い合わせましたところ「いやいや減少してます！」との回答で資料をお送りいただきました。



白川河口周辺最大羽数と報告件数



このグラフの羽数は、1年間通しての最大渡来数です。

冬期・春期・秋期の積み上げではありません！

折れ線は調査回数で、棒グラフは、渡来種の最大羽数の積み上げです。

白川河口は横這いでしょうか？

有明海沿岸での渡来数は、良くて横這い殆どが減少していて
東よか干潟への一極集中となっています！

全体個体数の減少で分散の必要がなくなった？

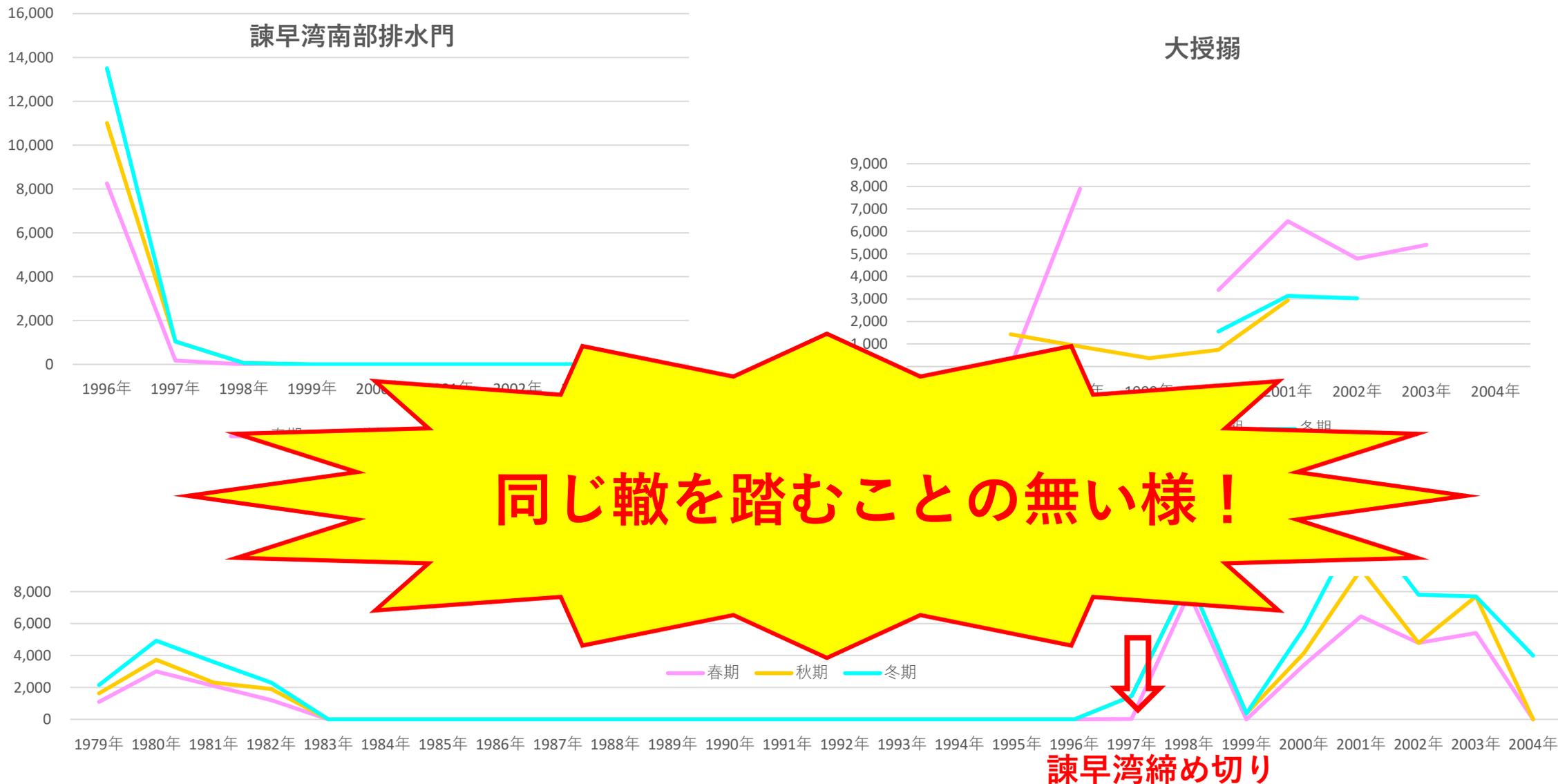
渡来地の環境劣化で利用出来なくなった？

資料から断定的に「こうだ！」と結論付けは出来ませんが・・・

一極集中は、出水のツル同様、感染による絶滅も危惧されます！

だから！どうするのか？私達は、答えを持ちませんが！

諫早湾締め切り前後のシギチの変動の資料は、あまりありませんが？
有明海水鳥調査報告書に、連続はしてませんがデータがありました。



知恵を出し行動する時です！

ご清聴ありがとうございました。

